

今月の症例

下肢虚血をともなうB型解離に対する大腿動脈バイパス術

症例：58歳 男性 主訴：背部痛・左下肢のしびれ

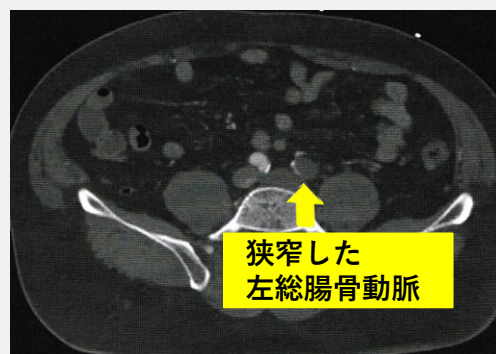
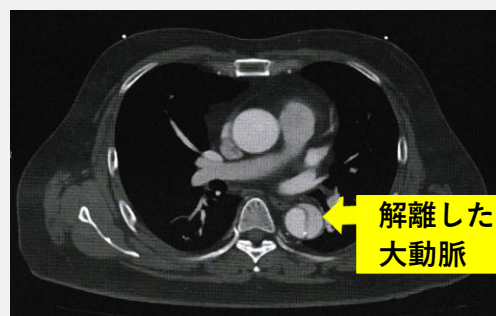
現病歴：午前10時ごろ突然の腰背部痛および左下肢のしびれあり、救急要請し当院へ搬送

- ・造影CT検査で急性B型大動脈解離の診断
- ・左総腸骨動脈の高度狭窄あり、左下肢の感覚障害も持続していたため緊急手術となった。

* 臓器・四肢灌流障害を伴う急性B型大動脈解離

急性B型大動脈解離は破裂の恐れがなければ、降圧および鎮痛による内科的な保存加療が第一選択となりますが、腹腔内臓器や四肢の灌流障害を認める場合にも緊急手術が検討されます。本症例では左下肢の虚血および一致した症状があり、緊急で大腿-大腿動脈バイパス手術施行し無事症状は改善しました。

当院では多くのB型解離の患者さまを受け入れております。入院が必要な疾患であり、保存加療が選択されることも多いですが、手術が必要な症例も一定数ございます。疑わしい患者さまがいらっしゃれば、ぜひご相談ください。



文責 石田純也

こちらも是非ご覧ください!

